

# 都立志村学園

本校は、東京都特別支援教育推進計画に基づき、軽度の知的障害のある生徒の企業就労を目指すための高等部就業技術科と肢体不自由教育部門を併置する特別支援学校として、2013年4月に開校しました。開校後は新設校として、都教育委員会の支援を頂き、様々な指定事業を実施してきました。主なものに、

「日本の伝統文化の良さを発信する能力・態度の育成（15年度）」 「特別支援

## Tokyo2020の先へ 未来へつなぐ オリパラ教育 19

の体力向上推進優秀校、16年度オリンピック・パラリンピック教育アワード校に選出され、表彰の栄誉にあずかることができました。

本校がオリパラ教育を本格的にスタートさせたのは、リオデジャネイロでオリンピック・パラリンピック競技大会が開催された16年9月からです。都が推進する同教育では、重点的に

昨年年度は、テレビで見たボッチャ競技に感動した肢体不自由教育部門小学部の児童が積極的にボッチャ体験をしたり、同中学部の生徒が文化祭のテーマにオリンピック・パラリンピックを取り上げ、世界各国の国旗を作成したり、同高等部の生徒が文化祭で地域の方とボッチャで交流するため企画・運営を行ったりし

今年度は、取り組みの第一弾は、5月に実施した高等部就業技術科の生徒と2017国際ユース(U-14)サッカー大会に出場するドイツベルリンチームとの国際交流でした。生徒たちはウエルカムボードや交流記念として渡す鉢巻きを作成したり、実習施設であるカ

フェレストランでおもてなしをしたりしました。この時、抹茶入りの焼き菓子を作って出しましたが、ドイツには緑色のお菓子を食べる文化がなく、選手たちが大変驚いている様子に本校の生徒たちが驚くなど、国や文化の違いを実感することもできました。

7月には、日本卓球バレー連盟の指導員をお招きし、ユニバーサルデザインスポーツである卓球バレーを肢体不自由教育部門中学部の生徒が体験したり、11月の肢体不自由教育部門の文化祭で、高等部の生徒がパラリンピックの正式種目であるゴールボールの体験コーナーの企画・運営を行ったりと、様々な障害者スポーツについてもチャレンジしました。このことを通じて、自分たちの障害とは

## あらゆる枠を超えた多様性を学ぶ

育成すべき五つの資質として「ボランティアマインド」

「障害者理解」「スポーツ志向」「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」が挙げられています

また、高等部就業技術科では、サッカー部の生徒が北区赤羽スポーツの森公園競技場で開催された知的障害者サッカー教室のボランティアとして参加し、知的障害のある小学生をサポートしたり、教科「情報」の時間に世界の国々の歴史や文化をまとめる学習をしました

この他にもたくさんの活動を通して、児

ドイツベルリンチームとの交流(志村学園カフェレストランにて)

